

ザ・クインテッセンス／2012. 4月号

○特別企画 外科・非外科論争の時代は終わった

個々の患者に応じた治療術式の選択 (佐々木 猛・中村公雄・小野善弘)

*一昔前には治療が困難であった症例に対し、様々な術式が予知性の高い治療オプションとして紹介され日常臨床に応用されている。これらの治療術式は選択肢が多岐におよぶことから、患者の病体、疾患の原因、進行度、希望を反映させ、個々の患者に応じた適切な治療術式を選択する必要がある。筆者は4つの類似した症例に対し、どのように対処したかその根拠とともに例示してわかりやすく解説している。外科が必要か治療術式の選択に迷う時、とても参考になるだろう。

日本歯科評論／2012. 4月号

○＜特集＞ 1つ上を目指す歯内療法へのアプローチ(II) 根尖病変への対応を再考する

(石井信之 他)

*歯内療法特集第2弾です。今回は根尖病変の成り立ちから外科的歯内療法までを再考します。歯根肉芽腫と歯根嚢胞の違い、根尖孔外バイオフィルム、マイクロスコープを使用した歯根尖切除法、そしてその成功率まで詳しく説明しています。根管治療で困ったことがあったら是非読んでみてください。

○Contribution ファイバーポストの効果的利用方法—レジン支台築造の失敗を防ぐために

(荒井良明 他)

*ファイバーポストの普及が近年進んできています。ファイバーポストは審美性だけでなく、歯根破折を回避することに大きな意義があります。そのためにはどのようなファイバーを使い、どこにどのように入れると効果があるのかを研究から解説しています。ファイバーポストをお使いの方は是非参考にして臨床に役立ててください。

デンタルダイヤモンド／2012. 4月号

○実践歯学ライブラリー／根分岐部病変に対する再生療法 (松井徳雄)

*根分岐部病変を抱えた歯では、複雑な治療方法が必要となる場合が多い。この特集では、根分岐部病変の診査・原因・治療が難しい原因から、治療法について記述しています。なかでも再生療法(エムドゲイン、GBR)については多くの紙面を割き、症例を提示して詳しく記述してあります。是非一読しておきたい内容です。

ORinsho.com／診断ミスからリカバリーを要した一症例 (毛内伸威)

*インプラントの審美的な予後を左右する要因のひとつに術後に歯周組織が吸収するという問題がある。本稿は、抜歯予定の歯牙を矯正的に提出抜歯して、十分な骨を保持してインプラントを埋入したが、TEK装着時のブラケットライアングルは気になって、歯間乳頭再建術を行ったところ歯間乳頭の壊死・退縮を起こしてしまい、再度の軟組織移植を行って患者さんの満足を得た症例を是非時系列で提示して、反省点と臨床的考察を示しています。是非一読ください。

歯界展望／2012. 4月号

○特集 自家歯牙移植の予後を検証する2 —712歯の臨床統計に基づく自家歯牙移植の

サバイバルレート—スタディグループ救歯会 (黒田昌彦 他11名)

*3月号に引き続き、712歯の臨床統計から自家歯牙移植のサバイバルレートを考察し、この意義や可能性について、ディスカッションしている。平均生存年数は14.6年でメンバーの中からも、驚きと満足の声が多かった。成否の鍵は、歯根膜の状態、シチュエーションとすれば、50歳未満の女性の単根歯で、非喫煙者に成功率が高いそうだ。移植の経験のある先生にはぜひ目を通していただきたい特集だ。

○特別寄稿 歯科治療にバイオメカニクスを活かす (吉野晃 河原優一郎 山道信之)

*バイオメカニクスとは、生体に作用する力とそれが惹起する現象を解明する学問である。臨床の場で悩まされる、細菌感染のみで説明ができない症例を、力学の問題としてとらえる事のづけになると思われる。今回はインプラント治療の構造力学について、詳しく述べている。